



△フェスティバルが開催された、ミシガン州ブルーレイク・ファインアーツ・キャンプ

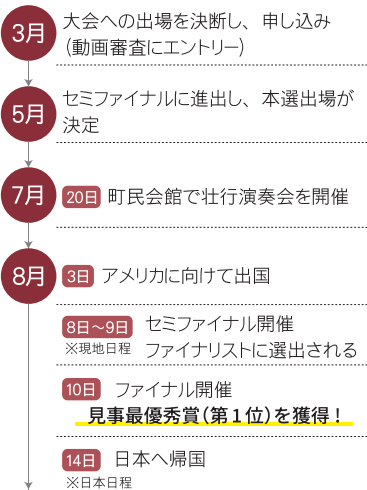
予選の課題曲2曲を演奏した動画を送るのですが、あわただしい時期で、ピアノ伴奏をお願いする方との日程がなかなか合わず、ここが最初で苦労しました。それでも、『愛ちゃんのためなら!』と札幌市在住のピアノ奏者の方が引き受

けてくださることになって、録音のために札幌へほぼ日帰りで行き、事前の合わせ練習を数回行って動画撮影に臨みました。結果的に予選を通過しましたが、この時は予選通過よりもエントリーできたことにホッとしていました。

5月に、大会HPで合格者が発表され、私の名前が掲載されていました。その瞬間は「通過しちゃった」という驚きと、「すごいチャンスをもたらったけど本当にアメリカに行けるのか」という緊張と不安が大きかったです。費用面、楽器の運搬など考えなければならぬことが多く、初めは渡米を辞退することも考えていました。

実は、本選出場が決まってからしばらくの間、周囲にはそのことが言えずにいました。もともと8月は吹奏楽団体コンクールなどもあり忙しく、その上海外の大会となると、高校の吹奏楽局の顧問の先生が認めてくれないんじゃないか。しかし、その心配は全く不要

世界一までの道のり



NEXT PAGE

第1位受賞の瞬間と、これから



ています。

道路も広く、気候も快適でオホーツクと似ているという印象で、自然豊かな風景だったことが大変印象に残っています。

3 美幌と似たような風景

8月3日の夕方、アメリカに向けて出発しました。シカゴ空港に降り立ち、父の友人がイリノイ州にいるので、そのお宅で2泊した後、友人の方車で10時間以上かけて北上し会場に向かいましたが、

時差ボケで体調がすぐれず大変でした。食事の面では特に不便を感じることはありませんでした。シカゴから会場のあるミシガン湖の右岸を車で5時間ほど北上すると、美幌町から美幌峠を越えて屈斜路湖まで行く道の風景と重なり、初めての場所なのにどこか懐かしくとても癒される景色でした。

1 両立の中で挑戦と決断

今回出場した大会のことは以前から知っていました。これまでも色々な大会に出場してきましたが、海外で同じ楽器を吹いている仲間と出会い、演奏をとおしてつながりたいという気持ちで、自分の中に強くありました。しかし高校の部活の予定や複数のコンサートで賛助出演の機会もいたっていて、両立や練習時間が取れるか悩みましたが、応募期限が近い3月に挑戦を決断。まず、

2 本選出場が決定

予選の課題曲2曲を演奏した動画を送るのですが、あわただしい時期で、ピアノ伴奏をお願いする方との日程がなかなか合わず、ここが最初で苦労しました。それでも、『愛ちゃんのためなら!』と札幌市在住のピアノ奏者の方が引き受

今の特集

美幌出身

石井愛さん 頂点に立つ。



レナード・ファルコーニ
国際ユーフォニウム&チューバフェスティバル2026最優秀賞

世界一の快挙から 2か月あまり

アメリカで開催された「レナード・ファルコーニ国際ユーフォニウム&チューバフェスティバル2026」学生部門に出場し、見事第1位に輝いた石井愛さん。今回の快挙は美幌町にとって大変大きな名誉です。そこで今回は、石井さんが世界一を獲得するまでの道のりと今の思いに迫ります。全てが順調ではなかったその道のり。学業や日常生活との両立、現地での様子など、高校3年生の等身大の言葉で、大いに語りました。

石井 愛さん
ISHII, Manami

美幌小学校、北中学校をそれぞれ卒業し、現在は北見北斗高校3年生。小学2年生の時からユーフォニウムを始め、令和5年に KOBÉ 国際音楽コンクールで最優秀賞、令和7年に大阪国際コンクールでエスポアル賞を受賞したほか、吹奏楽団体コンクールや各種個人コンテスト等で優秀な成績を収める。趣味は韓国の時代劇を見ること。

